

令和3年司法試験 合格体験記

平成29年度修了（未修コース）大塚 慎也

12 期末修の大塚慎也と申します。私は、山口県下関市出身で、福岡大学を卒業後、岡山大学法科大学院に入学しました。今回、4回目の挑戦で合格することができました。

私は法学部卒ですが、学部では勉強をしておらず、ロー入学時は答案の書き方を全く知らない状態でした。このままでは進級・卒業も危ういという中、先生方、学習アドバイザーのOBの先生方の熱心なご指導及び勉強環境を整えて下さった資料室・事務の方々のご支援により合格に結び付きました。この場をお借りしまして、お礼を申し上げます。

さて、私は3回の不合格を経験しましたが、全て短答足切りという失態を犯しました。そのため、短答が苦手な方の気持ちがよく分かります。そこで、足切りの不安がある方向けの発信となることをお許し下さい。

私の失敗の原因は、ただ問題数をこなすことに終始したことにあります。それは、短答は数をこなせばいいという助言を鵜呑みにしたからです。これを改めるため、3つのことを行いました。

①直近5年分の過去問を解く。その際、肢の理由まで分かって初めて○にする方法で繰り返します。5年分に絞ったのは、量よりも質を重視したかったからです。

②正答率記載の演習本で正答率80%以上の肢を間違えなくなるまで繰り返す。これは他の受験生ができる肢ができないのは特にヤバイと意識するためです。

③全年度の過去問に取り組む。①のおかげで実は同じ肢の問い方が変わっているだけだと気づけました。直前期は1時間強で憲民刑を1年度分解いていたように思います。

また、短答と論文を切り離す勉強はダメです。②の問題は特にAランク論点なので、論文での書き方の意識を持ちつつ解いて下さい。

次に、論文で特に大事なものは、問いに答える姿勢です。論点を書けるようになったからといって、問われていないことを長々と書いても点はつきません。誘導がある科目はしっかり誘導に乗る、それ以外でもまずは設問を熟読して、何が問われているかを把握し、問いに答えてください。

最後に、「チャンスはたゆまず準備をしつづけたものに微笑むから出来ない理由探すのもうやめにしよう」（歌：Little Glee Monster/曲：I BELIEVE）

勉強中の自分と重なったこの歌詞が好きで励まされました。皆さんにもチャンスは平等に与えられています。後悔しないように日々の準備を怠らず、合格のチャンスを掴んでください。